

2022年度

事業報告

自：2022年4月 1日

至：2023年3月31日

公益財団法人 京都技術科学センター

2022年度事業報告

I 公益目的事業1（研究助成事業）

技術立国日本を支える科学技術の振興を図るため、若手研究者が行う研究開発に必要な資金を助成するとともに、次年度の助成対象者を募集し、選考した。

1 2022年度研究開発助成金の交付

2021年度第2回定時理事会で決定した研究開発助成対象者に対して、研究開発に必要な資金を助成した。

- (1) 助成対象者 近畿地方及びその周辺地域（富山県、石川県、福井県、三重県、中国地方及び四国地方）の大学等に在籍する40歳未満の若手研究者
- (2) 研究開発分野 ものづくりに資する基礎的・応用的研究であって、材料、機械、電気電子の各技術分野に属するもの
- (3) 助成件数 15件（一覧表は下記のとおり。応募件数は53件）
- (4) 助成金総額 1,500万円
- (5) 研究期間 2022年4月から2023年3月までの1年間（原則）

2022年度研究開発助成テーマ等一覧表

No.	研究開発助成テーマ	助成金交付者			助成額 (万円)
		所属	役職等	氏名	
1	ナノ物質の自在創製に向けた液中原子分子操作技術の開発	滋賀県立大学工学部 電子システム工学科	准教授 博士(工学)	小林 成貴	100
2	衝撃パンチング穿孔を有するCFRP積層板のインピーダンスモニタリングによる引張損傷挙動の解明	香川大学創造工学部創 造工学科	准教授 博士(工学)	松田 伸也	100
3	イソシアニドの挿入数制御に基づく含窒素環状化合物の多様性志向型合成法の開発	京都大学大学院人間・ 環境学研究科相関環境 学専攻	助教 博士(工学)	新林 卓也	100
4	α -イミノエステルの極性転換/ラジカルカップリングによるフッ素化アミノ酸合成法の開発	三重大学大学院工学研 究科分子素材工学専攻	准教授 博士(工学)	溝田 功	100
5	高密度な自由末端鎖の動的機能により力学特性を自在に変化する高分子ゲルの創成	滋賀県立大学工学部 材料科学科	講師 博士(工学)	伊田 翔平	100
6	パッチ補強構造の力学特性評価に向けた弾性ガイド波斜角入射法の研究	大阪大学大学院工学研 究科機械工学専攻	助教 博士(工学)	森 直樹	100

7	Development of a 3D-shaped knitted composite for wearable cushioned product	京都工芸繊維大学繊維学系	助教 ph.D	YU Annie	100
8	非晶質マトリックス中のナノ分極を用いた新奇サイズ効果フリー誘電体薄膜材料の開発	岡山大学学術研究院自然科学学域応用化学専攻	助教 博士(工学)	近藤 真矢	100
9	高効率ペロブスカイト太陽電池のための電子回収層材料の開発	京都大学化学研究所複合基盤化学研究系分子集合解析研究領域	助教 博士(工学)	中村 智也	100
10	スルホベタインをシェルとする刺激応答性高分子会合体	京都大学大学院工学研究科物質エネルギー化学専攻	特定研究員 博士(工学)	金 東昱	100
11	アルミニウムめっき膜の「自発的な平滑化」の機構解明と応用	大阪公立大学大学院工学研究科機械系専攻	助教 博士(エネルギー科学)	東野 昭太	100
12	疑似ラフト構造および疑似細胞骨格を有する人工細胞の創生-ラフト構造と細胞骨格による膜タンパク質挙動制御へのアプローチ-	奈良工業高等専門学校物質化学工学科	准教授 博士(工学)	林 啓太	100
13	フッ化物-塩化物熔融塩中における β タングステン電析及び電析メカニズムの解明	京都大学エネルギー理工学研究所エネルギー利用過程研究部門	助教 博士(エネルギー科学)	法川勇太郎	100
14	ガスクラスターイオンビームによるXPS 溶液測定用セルの光電子検出窓の高性能化	兵庫県立大学大学院工学研究科電子情報工学専攻	助教 博士(工学)	竹内 雅耶	100
15	超高压下における π 共役系分子の集積構造の固定化と機能探索	大阪大学大学院基礎工学研究科物質創成専攻	助教 Ph.D.in Chemistry	桶谷 龍成	100

2 2023年度研究開発助成対象者の募集及び選考

2023年度助成対象者を募集し、2023年2月18日(土)に開催した研究助成選考委員会で選考の上、2022年度第2回定時理事会において決定した。

- (1) 助成対象者 近畿地方及びその周辺地域(富山県、石川県、福井県、三重県、中国地方及び四国地方)の大学等に在籍する40歳未満の若手研究者
- (2) 研究開発分野 ものづくりに資する基礎的・応用的研究であって、材料、機械、電気電子の各技術分野に属するもの
- (3) 募集期間 2022年12月1日から2022年12月19日まで
- (4) 応募者数 55人
- (5) 助成対象者数 16人
- (6) 助成金総額 1,600万円

II 公益目的事業2（人材育成事業）

科学技術の振興を担う人材を育成する事業を行った。

なお、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、事業の特性に応じた感染防止対策を講じた。

1 技術セミナー

(1) ものづくり先端技術セミナー

ものづくり技術開発の高度化を促進することを目的に、先端技術シーズや研究開発の最前線の状況を紹介するセミナーを開催した。

ア 名称 2022年度ものづくり先端技術セミナー
イ 共催 公益財団法人京都技術科学センター
京都府中小企業技術センター
ウ 方法 オンライン及び会場（京都府産業支援センター5階研修室）
エ 受講料 無料
オ 内容

	開催日・テーマ等	
第1回	日時 2022年6月15日（水） 14:00~16:00 テーマ 「金属から樹脂への材料置換の基礎と事例」 講師 大塚技術士事務所所長 大塚 正彦 氏 テーマ 「ライフサイクルの炭素量を見える化するカーボンフットプリントの意義と活用術」 講師 TCO2株式会社代表取締役 正嶋 宏一 氏 参加者 29人	
第2回	日時 2022年10月6日（木） 14:00~16:00 テーマ 「身の回りの熱から電気を産み出す」 講師 奈良先端科学技術大学院大学教授 中村雅一氏 参加者 30人	
第3回	日時 2022年11月9日（水） 14:00~16:00 テーマ 「熱をためる」 講師 東京工業大学教授 加藤之貴氏 参加者 31人	
第4回	日時 2022年12月6日（火） 14:00~16:00 テーマ 「熱をつかう」 講師 地方独立行政法人大阪産業技術研究所主任研究員 濱田真行氏、山口拓人氏 参加者 21人	

(2) 電磁波技術セミナー

マイクロ波・ミリ波、5G通信技術などに関連した技術分野の製品開発を行っている企業の技術者を対象に、電磁波関連の基礎的な技術解説や試作・開発・評価等に関する話題提供を行うセミナーを開催した。

ア 名称 2022年度電磁波技術セミナー
イ 共催 公益財団法人京都技術科学センター
京都府中小企業技術センター
ウ 方法 オンライン及び会場（京都府産業支援センター5階研修室）
エ 受講料 無料
オ 内容

開催日・テーマ等	
第1回	<p>日時 2022年8月4日(木) 13:00~17:00</p> <p>【第1部】 テーマ 「製品安全基礎 ―電気用品安全法(PSE)を中心に―」 講師 一般社団法人KEC関西電子工業振興センター試験事業部EMC・安全技術グループ 安全試験チーム チームリーダー 中山 太介 氏</p> <p>【第2部】 テーマ 「EMC入門編」 講師 一般社団法人KEC関西電子工業振興センター試験事業部EMC・安全技術グループ 安全試験チーム 主事 足田 修一 氏 参加者 40人</p>
第2回	<p>日時 2022年8月31日(水) 14:30~16:30</p> <p>テーマ 「電波を使った超高層大気観測 ― 観測ロケットとGNSSを使った電離圏電子密度計測―」 講師 奈良工業高等専門学校電気工学科准教授 芦原 佑樹 氏 参加者 9人</p>
第3回	<p>日時 2022年9月9日(金) 13:30~16:00</p> <p>テーマ 「EMC対策～受動部品を使った効果的なノイズ対策～」 講師 ウルト・エレクトロニクス・ジャパン株式会社 フィールドアプリケーションエンジニア 廣田 大輔 氏 参加者 19人</p>
第4回	<p>日時 2022年11月11日(金) 13:30~17:00</p> <p>テーマ 「今日から使える設計者向けCAEソフト Femtet を用いた電磁界解析の基礎とシミュレーションの活用ポイント」 講師 ムラタソフトウェア株式会社営業企画部販売推進課シニアエンジニア 五嶋 制二 氏 参加者 10人</p>

2 技術研究会

(1) ものづくり分析評価技術研究会

分光分析に関する系統的かつ高度な知識とノウハウを兼ね備えたものづくり技術者の育成を支援する研究会を開催した。

発足4年目となる2022年度は、最も汎用的な分光技法である『赤外分光法』及び次世代通信規格の到来に向けて注目を集める『テラヘルツ分光法』をテーマに開催した。

- ア 名称 2022年度ものづくり分析評価技術研究会
- イ 共催 公益財団法人京都技術科学センター
京都府中小企業技術センター
- ウ 方法 オンライン及び会場(京都府産業支援センター5階交流サロン)
- エ 参加者 関連企業の技術者・研究者(22社35人)
- オ 会費 年額5,000円/人
- カ 内容

例会	日時	内容
第1回	9月27日(火)	講演: 「赤外分光法の基礎と最近の動向」 講師: 関西学院大学名誉教授・フェロー 尾崎 幸洋 氏 講演: 「振動分光法」 講師: 近畿大学理工学部准教授 森澤 勇介 氏

第2回	10月21日(金)	講演：「赤外分光装置について」 講師：株式会社右近工舎代表取締役 右近 寿一郎 氏 講演：「赤外分光法の測定テクニック」 講師：株式会社島津製作所分析計測事業部 鈴木 康志 氏 講演：「スペクトル解析の基礎」 講師：関西学院大学名誉教授・フェロー 尾崎 幸洋 氏
第3回	11月25日(金)	講演：「遠赤外・テラヘルツ・低波数ラマンの関係」 講師：関西学院大学名誉教授・フェロー 尾崎 幸洋 氏 講演：「テラヘルツ分光法について」 講師：福井大学遠赤外領域開発研究センター教授 谷 正彦 氏
第4回	12月13日(火)	講演：「テラヘルツ分光の測定と応用」 講師：福井大学遠赤外領域開発研究センター特命助教 北原 英明 氏 講演：「高分子のテラヘルツ分光」 講師：神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授 佐藤 春実 氏

※開催時間は、いずれも13:00～17:00

(2) 品質工学研究会

関西品質工学研究会との共催で、品質工学に関するシンポジウムを開催した。

ア 名称	品質工学シンポジウム2022
イ 主催	関西品質工学研究会
ウ 共催	公益財団法人京都技術科学センター 中部、滋賀県、広島各品質工学研究会
エ 日時	2022年10月7日(金) 10:30～17:00
オ 方法	オンラインと会場(日刊工業新聞社西日本支社会議室)の併用
カ テーマ	「品質工学の本質を探る～社会損失低減に向けた品質工学」
キ 内容	

項目	内容
基調講演	「2030年：モノづくりからコトづくりへ～新たな質価値の創造をめざして」 中部品質管理協会 細身 純子 氏
招待講演	「ニオイセンサを用いたMT法によるマスクメロンの熟成モニタリング」 東京都立産業技術大学院大学 小黒 諒 氏
事例発表	「社会損失の低減はまず工場のみダ削減から — 生産シミュレータ開発における品質工学SN比の活用」 ローム株式会社 山中 貴光 氏 「機械学習におけるMT法の立ち位置」 株式会社ダイセル 福田 翔太 氏 「品質工学の考え方とQFDを活用した新事業開発のアプローチ」 株式会社リコー 渡辺 誠 氏 「マツダ車両開発における社会損失低減」 マツダ株式会社 武重 伸秀 氏

ク 参加人員 207人(研究会関係者83人、一般参加者124人)

3 テクノアイデアコンテスト

将来の産業・科学技術の発展を担うベンチャー精神に富んだ起業家や柔軟でユニークな発想を持つ研究者を育成するため、科学技術やものづくりへの関心を高める取組の一環として、高校生や大学生等を対象に、技術に関する独創的なアイデアを募集し、書類審査の通過者を対象にコンテスト(最終審査)を行い、優れたアイデアを表彰した。

(1) 主催等

- ア 名称 テクノ愛2022
- イ 主催 テクノ愛実行委員会
- ウ 共催 公益財団法人京都技術科学センター
京都大学産官学連携本部
- エ 後援 文部科学省、近畿経済産業局、京都府教育委員会、京都市教育委員会、NHK京都放送局、国立研究開発法人科学技術振興機構、一般社団法人日本ベンチャー学会、関西ベンチャー学会
- オ 協賛 大阪大学共創機構、神戸大学産官学連携本部、京都工芸繊維大学産学公連携推進センター、大阪電気通信大学、関西サイエンス・フォーラム

(2) 募集等

- ア 募集対象 高校の部：高校生、高等専門学校1～3年生
大学の部：大学生、大学院生、高等専門学校4・5年生、専攻科生等
- イ 募集期間 2022年8月1日～2022年9月9日
- ウ 応募状況 高校の部 23校、141件（学校所在地：青森県～沖縄県の12都府県）
大学の部 23校、68件（学校所在地：山形県～大分県の15都府県）

(3) 書類審査

- ア 選考委員による書類審査で、コンテストに進む高校の部、大学の部それぞれ9テーマを選考した。
- イ 上記以外のテーマのうち、書類審査で健闘したと認められた高校の部12テーマ、大学の部14テーマに対し、コンテスト当日の審査で健闘賞を授与することを決定した。

(4) コンテスト（最終審査）

書類審査で選考された18テーマについて、Zoom ミーティングを用いたオンライン方式でコンテストを行った。

- ア 開催日時 2022年11月23日（水・祝日）9:15～17:20
- イ 開催方法 発表者から提出された「スライドが自動的に切り替わるナレーション付きPowerPoint 資料」を事務局が画面共有する形で発表（プレゼンテーション）した後、質疑応答を行った。
- ウ 審査結果 ユニーク度（新規性、独創性等）、成熟度、実用性、アピール度の各観点から審査され、次のとおり入賞者を決定した。
高校の部：グランプリ1件、準グランプリ1件、優秀賞1件、奨励賞6件
大学の部：グランプリ1件、準グランプリ1件、優秀賞1件、奨励賞6件
総合の部：テクノ愛賞1件

※ 入賞者は、下記一覧表のとおり

テクノ愛2022入賞テーマ等一覧表

<高校の部>

賞名	テーマ	学校名	氏名
グランプリ	AI (アイ) で育てる農作物向け生育ナビゲーション	沖縄工業高等専門学校	藤波 太陽 知念 遥斗 久場 琉澄 伊計 琉汰 平良 琉馬 与那覇玄己
準グランプリ	食品に含まれる糖を用いたロケットエンジンの開発	兵庫県立洲本高等学校	太田 吏一 先田 敏之 安東優貴子 中川 裕太 木戸 沙織 眞野 海凜
優秀賞	Catch and Reuse	青森県立名久井農業高等学校	寺沢 ゆき 中居 泉徳 掛端 博貴 佐々木昌虎 大坊 拓也 新田 遥加
奨励賞	ギュッとパッとコード	愛知県立豊川工科高等学校	鈴木冴汰朗 瀬戸口姫奈
	無線 LAN を用いたドローンによる遭難者救助の研究	東京都立多摩科学技術高等学校	横山 瑞季 山田 爽太 松原健太郎
	Embedded System によって実現する 低価格×高性能スピコンタの開発	京都市立京都工学院高等学校	山中 海喜
	炎光光度法を用いたエアロゾル粒子の濃度計測と可視化装置の開発	東京都立小石川中等教育学校	水谷 紗更
	M5stack を用いた遠隔操作可能な BS0 表示板	筑波大学附属駒場高等学校	浅井 祐輝
	ヨウ素デンプン反応の電荷移動錯体の防カビ効果	大阪桐蔭高等学校	石原 彩愛 瀬口 裕香 池本 和月

備考 奨励賞は、発表順

<大学の部>

賞名	テーマ	学校名	氏名
グランプリ	炭酸水を用いた新たな創傷治療用ゲルの開発	東京理科大学大学院	手島 涼太
準グランプリ	誘電体バリア放電の誘起流を用いた殺菌装置の開発	鈴鹿工業高等専門学校	松本 嶺邑 本城 拓真
優秀賞	とも日記 ー認知症患者と “ともに” 交換日記ー	京都工芸繊維大学大学院	寺島 花奈 大原 衣吹 重本 千夏 舟橋美羽子 三浪 裕作 鄭 文豪
奨励賞	自動車のドアスピーカを活用した車内騒音低減技術	富山県立大学	草野 大勢 重 昂輝
	まるでゲームの世界！？新感覚 AR デバイス	大阪電気通信大学	合田 直史

奨励賞	フレイルを予防するお米グミ ～米 Time for Your Health～	山形大学大学院	安孫子眞鈴 宇田 恭太
	人と人をつなぐソフトアバターロボット	大阪工業大学大学院	河端 嶺 田中 佑樹 清藤 圭人 西山 悠生
	スマホ用アクティブ音響制御アプリによるQoL の向上	富山県立大学	武田 尚恭 草野 大勢 清瀧 亮 李 喆 重 昂輝
	みんなで作るラテアート「Powder Print」	京都大学	四反田直樹

備考 奨励賞は、発表順

<テクノ愛賞>

賞名	テーマ	学校名	氏名
テクノ愛賞	無線LANを用いたドローンによる遭難者救助の研究	東京都立多摩科学技術高等学校	横山 瑞季 山田 爽太 松原健太郎

健闘賞受賞テーマ等一覧表

<高校の部>

賞名	テーマ	学校名	氏名
健闘賞	ぶんぶんゴマでスマホの充電	祐誠高等学校	名古屋芽依 野口真日呂 室園 麻友
	ルービックキューブソルバー	洛星高等学校	松尾 泰知
	モップカーリング	日本文理大学附属高等学校	児玉 悠河 三浦 恵龍
	深層学習を用いた視覚情報の予測に向けた基礎研究	奈良女子大学附属中等教育学校	濱野 泰地
	ファクトチェックの補助ソフトの開発	沖縄県立球陽高等学校	喜久川紗彩 赤嶺 幸起 金城 司沙 下地 夏花
	カリカリのコーンフレークが食べ隊!	郁文館グローバル高等学校	石井 美帆 森 文乃 王 嘉慧 メノターラ
	おしゃべりルーレット	同志社高等学校	沢 奏良
	布団乾燥機能付きベッド	松江工業高等専門学校	濱田 晏慈
	スマートハンガー	兵庫県立須磨友が丘高等学校	上野あかり
	塩害の対策	賢明学院高等学校	岩橋 主馬
	どこでも使える万能取付フック	大阪府立城東工科高等学校	山口 魁斗
	シャープペンシルの芯の太さとシャープペンシル	岡山県立玉島高等学校	小原木愛花

<大学の部>

賞 名	テーマ	学校名	氏 名
健 闘 賞	被介護者を見守り気持ちを伝えるぬいぐるみココロ	大分大学	松下 涼音
	落花生の殻に新たな価値を与えよう！	早稲田大学	林 成雄 石田 一真
	リフト収納	福井大学	上田 渉夢
	無重力環境対応金属3Dプリンター新造形方式「MAM」	兵庫県立大学	白木 章伍
	2種類の全方位カメラによる電気設備観測システム	福山大学	山田 幸輝 市川 智也
	深層学習を用いた農作物の盗難防止	大阪経済大学	渡邊 礼慎 布谷 太輝
	スケートボードで飛び越えろ！赤外線モジュール!?	津山工業高等専門学校専攻科	難波 優斗 戸田 皓太 中山 凜 平田 航
	塾と家庭をつなぐ”見るペン”	大阪大学	有山 直樹
	防除対象であるミシシippアカミミガメを用いた亀粉	近畿大学	清水 大河
	衝突にご注意！曲がり角注意報	武庫川女子大学	山野 希実
	トイレ空き状況確認アプリ	駒澤大学	上野 志月
	LINE bot 「がんじい」 -あなたのためのがん検診通知-	立命館大学	王 語非 大倉誠之輔 四反田直樹 松田 晏青 松本 知優
	地球温暖化を見据えた環境と人を助けるモビリティ	愛知県立愛知総合工科高等学校専攻科	尾崎 颯哉 相川 優斗 内藤 玲於
Prader-Willi症候群・Angelman症候群に対するエピジェネティクス創薬の可能性をIb型偽性副甲状腺機能低下症の病態から想起した。	国際医療福祉大学	植松 亮多	

(5) 委員会開催状況

ア テクノ愛実行委員会

開催年月日	開催方法	主 な 議 題
2022年8月2日	書面会議	1 実行委員会委員長の選任について 2 テクノ愛2022最終審査の実施方法について 3 テクノ愛2022開催要領について

イ テクノ愛選考委員会

開催年月日	開催方法	主 な 議 題
第1回 2022年9月10日 ～10月11日	書類審査	1 テクノ愛2022書類審査について
第2回 2022年11月23日	オンライン 会議	1 テクノ愛2022最終審査について 2 テクノ愛2022健闘賞の選考について 3 テクノ愛2023の開催方法等について

4 科学館・技術館訪問研修

毎年、夏休み期間に中学生及び高校生を対象に、高い技術力を誇る企業等を訪問し、科学技術のすばらしさや研究開発の楽しさ、おもしろさを学び、体験する研修会を開催しているが、2022年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大リスクを考慮して開催を休止した。

5 おもしろサイエンス

小学生を対象に、科学実験・工作イベントを通じて学び・知り・作ることの喜び、楽しさを体験し、科学への関心や理解を深める実験教室を開催した。

なお、8月12日（金）に開催する予定であった夏休み実験教室は、98人の小学生から参加申し込みがあったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大リスクを考慮して直前に中止した。

(1) 主催等

ア 主催	公益財団法人京都技術科学センター
イ 後援	京都府教育委員会、京都市教育委員会
ウ 協力	サイエンスEネット

(2) 開催状況

ア 名称	おもしろサイエンス2022～冬休み実験教室～		
イ 日時	2022年12月24日（土） 午前の部 11:00～12:00 午後の部 14:00～15:00		
ウ 場所	京都技術科学センター1階 B会議室		
エ 参加者	午前の部 小学生10人	午後の部 小学生 8人	（応募者84人）
オ テーマ	「リニアモーターカーを走らせよう！」		
カ プログラム	川村康文東京理科大学教授からリニアモーターカーの仕組みについて解説の後、真鍮棒によりレールを作り、これを電源となる電池とつなぎ、レールの上に置いた真鍮棒2本に紙製の電車を乗せて走らせた。その後、川村教授から電磁力とフレミングの左手の法則について説明があった。		

6 科学技術情報等提供

当センターが実施する事業に関する情報をホームページ（HP）を活用して提供し、応募者や参加者の拡大を図った。また、HPに研究開発助成テーマ、テクノアイデアコンテストの入賞アイデア等を掲載し、啓発に努めた。その他、HP上で、当センターの沿革・概要、事業計画・事業報告、収支予算・決算状況等の情報を公開した。

Ⅲ 収益事業

本法人が所有する建物・土地を事務室、研究（開発）室、倉庫、収納庫及び駐車場として賃貸するとともに、会議室を貸し出し、その収益を公益目的事業の実施に活用した。

1 施設の賃貸

(1) 利用者増加の取組

貸室の空き情報をHPで広報するとともに、2022年度は、地階東ゾーンにおいて、研究開発室（B16号室、B18号室、B19号室、B20号室、B21号室）やトイレの整備等を行った。

(2) 研究開発室への効果的な入居促進の取組

当センターでは、この間、研究開発室の整備を進めてきたが、京都市の主導で2022年度から京都市内のインキュベーション施設に係る情報交換等の取組が開始され、当センターもこれに参加した。

(3) 利用状況 (ア～ウは、2023年3月31日現在)

ア 事務室・研究室・倉庫の利用室数	52室	(2021年度	50室)
イ 収納庫使用室数	15室	(同	15室)
ウ 駐車場使用台数	43台	(同	43台)
エ 会議室利用件数	76件	(同	40件)

2 建物・設備等の管理

(1) 改修工事

ア 地階東ゾーン研究開発室整備工事

B16号室(試作室を含む。)、B18号室及びB19号室を研究開発室として使用可能となるよう、内装工事(床・壁補修、天井造設、扉・ブラインド設置、壁・扉塗装等)のほか、電気設備(分電盤・電力量計・配線・コンセント、エアコン・吸排気設備、照明、感知器等)及び給排水設備(給水管・排水管、流し台)等を整備する工事を実施した。

また、B20号室及びB21号室を研究開発室として使用可能となるよう、内装工事(壁塗装、天井一部造設等)のほか、電気設備(分電盤・電力量計・配線、エアコン・排気設備、照明、感知器等)等を整備する工事を実施した。

(設備投資 14,715,540円 大規模修繕費 5,971,570円 合計 20,687,110円)

イ 地階東ホール・地階廊下改修工事

B16号室及びB18号室に隣接する地階東ホール及び廊下に天井を造設するとともに、壁・ドアを補修・塗装を行うとともに、照明器具をLEDに更新する工事を実施した。

(設備投資 1,147,200円 大規模修繕費 604,000円 合計 1,751,200円)

ウ 地階東側トイレ増設工事

入居者の増加に伴う地階のトイレ不足に対応するため、地階東ゾーンに女性用トイレ(個室3)を新設するとともに、地階東男・女用トイレ(個室各1、小便器1)を男性用トイレ(個室2、小便器2)に改修する工事を実施した。

(設備投資 7,812,000円 大規模修繕費 456,700円 合計 8,268,700円)

エ 地階東廊下流し台更新工事

地階東廊下にある老朽化したコンクリート製流し台をステンレス製流し台に更新する工事を実施した。

(設備投資 732,000円 大規模修繕費 104,000円 合計 836,000円)

オ 給水管更新工事(第1次)

老朽化している鋼管製の給水管を順次塩ビ管に更新することとし、2022年度は、地階西側の機械室内にある加圧給水ポンプから地階東側に至る主配管(メイン管)及び地階東ゾーンの枝配管の一部を塩ビ管に更新する工事を実施した。

(設備投資 2,057,000円)

カ プレハブ倉庫床整備工事

プレハブ倉庫(東室)の床を整備する工事を実施した。(大規模修繕費 374,000円)

(2) 修繕工事等

・消防用設備修繕	(3件、278,850円)
・給水設備修繕	(55,000円)
・汚水用排水設備修繕	(3件 271,370円)
・1階東側女子トイレ換気扇取替	(272,800円)
・壁面クロス貼替	(114,730円)
・窓枠修繕	(43,000円)
・ドア修繕	(2件、50,600円)
・パソコン修繕	(34,540円)

(3) 保守管理

トイレ・床清掃等の日常的な保守管理のほか、次の特別作業等を行った。

・排水設備調査（マンハイム鴨川管理組合との共同事業） 当センター負担分	(909,770円)
・特許公報類（地階東側書庫）の処分	(154,000円)
・書架（地階東側書庫）等の処分	(330,000円)
・室名札の更新	(186,725円)
・床、壁の特別清掃	(97,900円)

IV センターの運営

1 センターの概要（2023年3月31日現在）

(1) 沿革

1942年12月28日	財団法人京都技術科学館として設立
1960年12月27日	財団法人近畿地方発明センターに改組
2012年4月1日	公益財団法人京都技術科学センターに改組

(2) 組織

評議員	12名
役員	14名（理事12名 監事2名）
委員	研究助成選考委員会委員 6名
	テクノ愛実行委員会委員 8名
	同 選考委員会委員 13名
事務局	常務理事兼事務局長1名、参事2名

2 理事会の開催状況

開催	議題	備考
2022年度 第1回定時理事会 2022年5月26日	I 決議事項 1 2021年度事業報告の承認の件 2 2021年度決算の承認の件 3 2022年度定時評議員会の招集の件 II 報告事項 1 業務実績について 2 建物賃貸借契約者の異動状況について 3 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況報告について	Web会議

<p>2022年度 第1回臨時理事会 2022年6月21日</p>	<p>I 決議事項 1 理事長、副理事長及び常務理事の選定の件 2 顧問の委嘱の件 II 報告事項 1 長期ビジョンについて 2 地階東ゾーン改修工事について</p>	<p>Web会議</p>
<p>2022年度 第2回定時理事会 2023年3月22日</p>	<p>I 決議事項 1 2023年度事業計画書の承認の件 2 2023年度収支予算書並びに資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類の承認の件 3 2023年度研究開発助成対象者等の決定の件 II 報告事項 1 建物賃貸借契約者の異動状況について 2 2022年度事業の実施状況について 3 長期ビジョンに基づく施設整備の取組について 4 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況報告について</p>	<p>Web会議</p>

3 評議員会の開催状況

開催	議 題	備考
<p>2022年度 定時評議員会 2022年6月14日</p>	<p>I 決議事項 1 評議員の選任の件 2 役員の選任の件 3 2021年度決算の承認の件 II 報告事項 1 業務実績について 2 2021年度事業報告について 3 建物賃貸借契約者の異動状況について</p>	<p>Web会議</p>

4 監事監査

開催	内 容	備考
<p>2022年5月17日</p>	<p>2021年度事業報告及び決算の監査</p>	

事業報告の附属明細書

定款第8条第1項第2号に規定する事業報告の附属明細書は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する2022年度事業報告の内容を補足する重要な事項が存在しないので作成しない。

